

やってみよう!!  
ワークシート



新聞には毎日、たくさんの記事や写真、広告がのっています。  
世界的な大ニュースから身近な地域の話までさまざまです。神戸新聞社は、その中から知ってもらいたいことや深く考えてほしい記事を取り上げ、ワークシートを作って自宅学習などに活用してもらっています。今回は、2018年に全国で300人以上が亡くなった西日本豪雨から、4年がたった被災地のお話です。

# 西日本豪雨4年 祈り届け



西日本豪雨から4年となり、復興への願いを込めともされたキャンドルの前で手を合わせる子どもたち=6日夜、岡山県倉敷市真備町地区

14府県で304人が犠牲になった2018年の西日本豪雨は6日、最初の大雨特別警報が出てから4年となった。広島と岡山を被災地で追悼式が開かれ、遺族らは「前向きに生きていく」と誓った。愛媛を含めて被害が甚大だった3県では、今も計112人が仮設住宅などで「仮住まい」をしている。  
広島県では151人が死亡し、5人が行方不明に。広島市安佐北区の式には約20人が参列した。同県坂町では十数人が寺で犠牲者を追悼した。  
岡山県で亡くなったのは95人で不明は3人。広範囲が浸水し

## 岡山・真備

た同県倉敷市真備町地区の文化施設「マービーふれあいセンター」で開かれた式で、母を亡くした遺族代表の平松頼雄さん(69)は「つらい経験を教訓とし、昨年、防災士の資格を取った。地域の自助共助を図ることで母も喜んでくれると思う」と語った。夜には地区で住民が「祈り22」(祈は「いのる」という意味)などの形に並べたキャンドル約220個に明かりをともし、薄れゆく記憶や防災への意識を次世代につなぎたいと願いを込めた。

7月7日の朝刊にのった記事

①2018年の西日本豪雨から4年がたちました。どんな被害でしたか

②特に被害が大きかった3県はどこで、現在はどんな状況ですか

③被災地の追悼式は、住民のどんな思いで開かれましたか

答えは24日の「週刊まなびー」にのるよ。



④あなたの住んでいる地域では、どんな自然災害の被害が想定されていますか？自治体のホームページなどで、ハザードマップ(防災マップ、被害予測地図)を調べて、もしものときのことをおうちで話し合ってみましょう



もっとワークシートをやってみたいと思った人は、電子版「神戸新聞NEXT」の「神戸新聞NIE」コーナーでワークシートを検索してみてください。たくさんあるので興味のある新聞記事を選んでね。今回のワークシートの答えは、メール(kobe-nie@kobe-np.co.jp)か、はがき(〒650-8571 神戸新聞社「週刊まなびー」ワークシート係)で、名前と学年、または年齢を添えて7月23日必着で送ってね。正解者の中から、抽選で毎月10人に神戸新聞の記念品をプレゼントします。

10日週刊まなびー

ワークシートの  
解答例

- ①肝臓は自覚症状が出にくい「沈黙の臓器」なので、肝臓のケアに役立つ知識や行動を楽しく学んでもらうため
- ②10~30代の若年層は健康への関心が低いため、生活習慣を見直したり、検査を受けたりするきっかけをつくる
- ③日常生活が肝臓に与える影響▽ウイルス感染でがんの原因にもなるB型、C型肝炎や「脂肪肝」のリスクの増え方▽患者の経過の疑似体験ーなど
- ④自由記述